

英国政府イノベーション年次報告(2008年度)について

12月4日に首相官邸で、イノベーション・大学・職業技能省(DIUS)は、ゴードン・ブラウン首相、ジョン・デナム DIUS 大臣、ポール・ドレイソン科学技術・イノベーション担当大臣の出席のもと、「英国政府イノベーション年次報告(2008年度)」を発表した。

本報告は、公的サービスの転換及び年間1,750億ポンド(約26億円)に上る政府公共調達を通じたイノベーションの進捗状況についてとりまとめたものであり、2007年10月にセインズベリー・レビューの発表と同じ日に発表されたDIUSの施策の中で作成するとされていたもので、この度がはじめての発表となる。また、公共調達については、各省庁がそれぞれイノベーション調達計画を策定することになっており、そのためのガイダンスが今回あわせて発表された。

内容としては、イノベーション関連の情報・データが示されているほか、全ての関係省庁及び政府関係機関のイノベーションに係る取組み状況、セインズベリー・レビュー(2007年10月発表)及びイノベーション立国白書(2008年3月発表)における提言に対する進捗状況についても記されており、事例紹介も含めて約280頁にわたるため、各章の冒頭に記されている「KEY FACTS」を中心に、概要を以下にまとめた。

1. 主な施策の例

○イノベーション研究センター

2009年1月に開始し、5年間で500万ポンド(約7.5億)を、DIUS、経済社会研究会議(ESRC)、英国科学技術人文基金(NESTA)、技術戦略会議(TSB)が財政支援。ESRCが主導。

○省庁イノベーション調達計画(IPP: departmental Innovation Procurement Plans)のガイダンス

各省庁がイノベーション調達計画を策定するためのガイダンスを発表。

※詳細は、「9. 参考資料」の「英国政府の公共調査政策のサイト(DIUS)」を参照

○継続教育機関(Further Education Colleges)の専門家パイロット事業

継続教育機関の専門家を活用して、産業をより革新的なものにし、新しい市場の開拓を促進するための新規パイロット事業を開始。

(参考) 12月4日付け DIUS プレスリリース(「9. 参考資料」参照)

2. 英国のイノベーションのパフォーマンス (第1章)

○イノベーションを引き起こすビジネス(Innovation active businesses)は、2001年の49%から、2007年は68%に増加

○民間の研究開発投資額はG7の中で5位だが、大企業の研究開発投資は2005年から2006年で5%増加(実質ベース)

- 英国には世界で2番目の金融市場があるが、スタートアップ企業や初期段階の企業へのベンチャー・キャピタルの投資は、2007年は4%
- 米国における英国の特許取得件数は、G7の中で5位
- 理系科目の学位取得者は36,220人増加し、博士号取得者は2,632人増加(2003年から2007年間に)
- 科学的開発について情報周知されていると感じている国民は、2005年の39%から2007年は56%に増加

※報告書中では、それぞれグラフを用いて紹介されている

3. 研究、知識移転、産業・イノベーション (第3章)

<p>研究会議等関連</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○英国政府の科学技術関係予算は、2010年度は年間60億ポンド(約9千億円)まで増加 ○英国は、研究論文の発表数が世界3位(米国と中国に次ぐ) ○英国は、主要な科学誌における被引用数シェアが12%で世界2位(米国に次ぐ)
<p>技術戦略会議</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○TSBは、地域開発公社(RDA)及び研究会議と連携して、現在の包括的歳出見通し期間(2008~2010年度)に総額10億ポンド(約1,500億円)の事業を調整 ○TSBの予算は、2008年度の1.9億ポンド(約280億円)から、2010年度は2.6億ポンド(約390億円)まで増加し、RDA等との連携分を含めて889件12億ポンド(約1,800億円)の研究開発プロジェクトを支援。また、3千の企業と98の大学等が関与 ○6つのイノベーション・プラットフォーム(産学連携の包括的な取組み)が立ち上がった
<p>知識移転</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○大学等で7,500人が産学連携に関与 ○高等教育イノベーション・ファンド(HEIF)は1.5億ポンド(約230億円)まで増加(HEFCEが大学等へ配分するイノベーション促進のための助成資金) ○大学等の知識移転関連収入は、2003~2005年度の5億ポンド(約600億円)から、2004~2006年度には5.7億ポンド(約850億円)まで増加 ○特許申請件数は、2000年から2006年度までに倍増し1,913件 ○975件の知識移転パートナーシップが立ち上がっている ○研究開発促進のための税控除は、年間6億ポンド(約900億円)。今後中小企業に対する緩和措置でさらに年間8千ポンド(約120億円)を控除見込み

4. 科学・イノベーションにおける直接対内投資、国際協力（第4章）

- 英国は、対内直接投資で世界 2 位(米国に次ぐ)。欧州では、製薬及びバイオテクノロジー関連研究開発でトップ
- 主要な研究投資企業の約半数が英国に研究開発拠点を設置しており、英国は世界 2 位(米国に次ぐ)
- 英国の研究論文のうち、海外との共同の論文が占める割合は、1996～2000 年の 29%から、2001～2005 年は 40%まで増加(世界で最大の増加)
- 英国の大学等に所属する理系博士学生の 35%、教員の 20%は外国籍(2005 年度)
- 2007 年度の欧州イノベーション・スコアボードは、日本、米国、いくつかの欧州国とともに、イノベーションにおける世界のトップ・グループにあると評価

5. イノベーションのためのスキル（第5章）

- イングランドの大学入学資格試験(A レベル試験)において、理系科目を選択した学生数が、2000 年より 7%増加
- HEFCE は、戦略的に重要だが危機に面している(理系)科目に対して、1.6 億ポンド(約 240 億円)を配分
- 英国の大学における理系科目の卒業生は、2002～2006 年度に 5%増加し、英国出身学生が 11.4 万人、留学生が 1.6 万人。博士号取得者は 18%増加し英国内に 7,300 万人、英国外に 4,400 万人

6. 需要型イノベーションの促進（第6章）

- 公共調達とは、2006 年度に 1,750 億ポンド(約 26 兆円)
- DIUS は、公共部門のイノベーション開発のため、2008 年度に 52.5 万ポンド(約 7,900 万円)を配分
- 90%の省庁はイノベーションを重要と考えており、86%の省庁はホライゾン・スキャニング・チームを設置
- 商業情報の商品・サービスの 25%は公共部門(試算ベース)

(参 考) 各省庁及び政府関係機関の取組みについて、イノベーション関連支出、リーダーシップ、戦略、実施等の観点で紹介されている。詳細は報告書本体の「6.3 Innovation in Government Departments」を参照

7. イノベーション立国白書の進捗状況（付属書1）

イノベーション立国白書の中の以下の項目について、進捗状況をまとめている。

需要型イノベーション
ビジネス・イノベーションの支援
強固で革新的な研究基盤

国際的イノベーション
革新的な人材
公共部門のイノベーション
革新的な場所

8. セインズベリー・レビューの進捗状況（付属書2）

セインズベリー・レビューの中の以下の項目について、進捗状況をまとめている。

項目	章番号	提言数
イノベーション・エコシステム	第2章	4
技術戦略会議(TSB)	第3章	9
知識移転	第4章	8
知的財産、標準、計量学	第5章	5
ベンチャー・キャピタルの供給	第6章	3
科学者・技術者として新しい世代を担う若者の教育	第7章	17
政府省庁	第8章	11
地域開発公社(RDA)の科学・イノベーション戦略	第9章	8
グローバルな連携	第10章	6

9. 参考資料

○英国政府イノベーション年次報告(2008年度)のサイト(DIUS)

http://www.dius.gov.uk/policy/annual_innovation_report.html

○英国政府イノベーション年次報告(2008年度)発表の DIUS プレスリリース(2008年12月4日)

<http://nds.coi.gov.uk/environment/fullDetail.asp?ReleaseID=386492&NewsAreaID=2&NavigatedFromDepartment=False>

○英国政府の公共調達政策のサイト(DIUS)

http://www.dius.gov.uk/policy/public_procurement.html

○省庁イノベーション調達計画(IPP: Innovation Procurement Plans)のガイダンス

<http://www.dius.gov.uk/policy/documents/Innovation%20Procurement%20Plans.pdf>

(了)